

平成29年度 学校評価アンケート結果の分析と改善策について

今年度の学校評価に多数のご協力をいただき感謝申し上げます。以下のとおり集計結果をご報告いたします。
利府高をさらに良い学校へ、また活気溢れる学校にしていこうという生徒・保護者の皆様の思いや期待に添えるよう取り組んで参ります。
今後ともご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。
なお、集計結果（実現度調査）の詳細については、本校ホームページ[http://rifu-h.myswan.ne.jp/html6_etc/evaluated.html]をご覧ください。

実施日：平成29年11月1日（水）
回収日：平成29年11月14日（火）
対象：生徒（回答数802名 回答率98.3%）、保護者（回答数793名 回答率97.2%）、教職員（67名）
「よく出来ている」、「大体出来ている」、「あまり出来ていない」、「出来ていない」の4段階による評価

実現度調査の分析と改善策【全年次共通】

アイコン表記のルール 80%以上 60~79% 40~59% 40%未満

10%以上 0~9% 0%未満

Table with 5 main columns: 実現度調査 質問項目, 良好ととらえている割合, 前年度比, 分析, 改善策. It contains 13 rows of data (① to ⑬) detailing survey results for various school activities and infrastructure, including learning motivation, life habits, career goals, counseling, club activities, school events, regional cooperation, disaster preparedness, school information, facilities, and early intervention.

実現度調査 質問項目	良好ととらえている割合 「よく出来ている」+「大体出来ている」	前年度比	分析	改善策
⑭ 家庭学習を含めた自主・自立的な学習態度を育成している。	生徒 66%	↓ -8%	肯定的な回答である「よくできている」と「大体できている」を合わせた割合について、保護者65.9%（昨年度71.5%）、生徒66.2%（昨年度73.7%）が下がっているが、教職員が37.3%（昨年度36.1%）はほぼ横ばいであった。また、例年と同様に生徒・保護者と教職員の差は依然として大きいものがある。生徒・保護者は学習時間など量的な観点から、教職員は提出された課題の質的な観点で判断している結果とも言える。保護者、生徒の肯定的な回答が減ったことと調査における欠点数の多さは相関があると思われる。「自主・自立的な学習態度」が満足できる段階には到達しておらず、下位層の基礎学力の定着に課題が残る。	「予習→授業→復習」という学習サイクルを体験させるために各教科で実施している学習オリエンテーションは形骸化している部分もある。1年次の転学者、退学者の多さを考えると、学習オリエンテーションの抜本的な改革が必要かもしれない（ただし、学校行事との関係も有り、他分掌との調整が必要である）。課題や小テストなどを授業と連動した形にし、日々の学習習慣を確立させ基礎学力の定着を図りたい。また、宿題や課題も、量的なものよりも、考える場を必要とする質的に充実した内容となるようにさらなる工夫をしていく必要がある。
	保護者 66%	↓ -5%		
	教職員 37%	→ 1%		
⑮ 進学先の学業に対応できる学力を養成している。	生徒 68%	↓ -6%	肯定的な回答である「よくできている」と「大体できている」を合わせた割合について、保護者62.0%（昨年度66.3%）、生徒68.2%（昨年度74.2%）、教職員が35.8%（昨年度42.6%）とすべて昨年度より下がっている。また、例年と同様に全質問中で最も生徒・保護者と教職員の差が大きかった。この意識のずれは、教員が進学先で必要と考えているレベルの学力と生徒の実際の学力および学習への取り組み状況に大きな差があることを示している。また、推薦・AO入試利用者が増加し、一般受験をする生徒が少ないことも影響している。	授業では生徒に主体的に学ぶ姿勢を身につけさせ、基礎学力の定着を図っていき。また、課題や小テストなどをうまく組み合わせる学習内容を確実に定着させるとともに、成績上位層には発展的な内容についても積極的に取り組ませたい。進路指導部と連携、協力を図り、1・2年次からの啓蒙的な学習指導と進路指導を実施したい。また、教職員の研修会等を利用して、新しい入試制度を念頭に置いて学習指導の研究を進めたい。
	保護者 62%	↓ -4%		
	教職員 36%	↓ -7%		
⑯ 3年間を見通した計画的・継続的な進路指導体制が確立されている。	生徒 79%	↓ -7%	肯定的な回答である「よく出来ている」と「大体出来ている」を合わせた割合については、教職員が67%に対し、保護者が76%、生徒が79%となっている。総合学習で行っていること、目的・意義について情報発信を通して教職員と生徒・保護者の間で求めているものの差が出てきているのかもしれない。	教職員の評価が低いということは、学校側が生徒に伝えられていないということでもあるので、本来であれば、生徒・保護者の評価も下がってよい結果である。今後、学校側で意識の共有を図り、継続的な進路指導が学校全体でできるようにしていきたい。
	保護者 76%	↓ -2%		
	教職員 67%	↓ -7%		
⑰ 「総合的な学習の時間」における進路指導が充実している。	生徒 83%	↓ -4%	肯定的な回答である「よく出来ている」と「大体出来ている」を合わせた割合については、教職員が78%、保護者が75%、生徒が83%となっている。総合学習の時間を通して、生徒がどのような気づきが出来たのかも見ていきたい。	分析欄にも記載したが、総合的な学習の時間を通して、生徒自身が自らの進路を考えるきっかけ（気づき）があったかを今後は調査していき、より良い総合的な学習の時間を計画していきたい。
	保護者 75%	↓ -4%		
	教職員 78%	↓ -1%		
⑱ 個に応じた適切な進路指導が行われている。	生徒 78%	↓ -2%	肯定的な回答である「よく出来ている」と「大体出来ている」を合わせた割合については、教職員が81%、保護者が70%、生徒が78%となっている。生徒・保護者と教職員の間に「個に応じた進路指導」という言葉に認識の差があるように感じている。	1・2年では「個に応じた進路指導」というよりは、様々なきっかけ（気づき）を与えながら、自ら進路を主体的に決定できるように指導をしている。3年次では、生徒各々の進路希望に合わせて進路指導は出来ていると思うので、今後も継続できるようにしていきたい。
	保護者 70%	↓ -3%		
	教職員 81%	→ 6%		
⑲ 全校清掃、校内外の美化活動を実践している。	生徒 79%	↓ -5%	肯定的な意見が保護者89%、教員90%といずれも高い割合となっており、校内美化・清掃について一定の評価をいただいた。しかし、生徒の肯定的な意見が79%でありやや下がっている。今後、生徒との認識の差を埋められるようにできる限り努める。	全体で肯定的意見が多かったことは喜ばしい。先生方にはご苦労をおかけしているが、環境美化は日常清掃の徹底が重要である。監督の先生方の指導と生徒の頑張りも今後お願いしたい。一方校内外の老朽化に伴い、掃除をしてもきれいなにならないという声もある。予算等の問題もあるがトイレ清掃など業者による清掃をしていただいたり、場合によっては校舎の改築や修繕も必要になってくると考える。
	保護者 89%	↓ -1%		
	教職員 90%	↓ -5%		
⑳ 「人の集まる図書館づくり」に努め、学習センターとしての機能が充実している。	生徒 62%	↓ -3%	肯定的な意見は保護者68%、教員72%、生徒62%と概ね取り組みが評価されている。しかし、教職員と生徒で10%の開きがある。図書館だよりや、進路向け新書一覧などを掲示したり、各教科からの希望図書や雑誌などを実施してきたが、評価は伸び悩んでいる。今後、生徒との認識の差を埋められるよう努力する。	進路に関する本の冊子をクラスごとに配置したり、読みやすい本の選定を心がけている。また、LHRで読書会を実施するなど、本を読む機会を増やすなどしてきた。休み時間や放課後の自習利用などもあるが、生徒が集まるという点に於いて、まだまだと捉えられているように感じた。今後は生徒だけでなく、教職員に対しても、より良い図書館になるような工夫をしていきたい。
	保護者 68%	↓ -2%		
	教職員 72%	↓ -10%		
㉑ 衛生管理を徹底し、生徒の健康の保持増進に努めている。	生徒 78%	↓ -6%	肯定的意見が生徒78%、保護者81%、教職員84%とおおむね取り組みは評価されている。生徒の健康の保持増進は先生方の日頃のご指導によるところが大きく、各クラスや部活動で、きめ細やかに配慮されているものと考えられる。	保健日より定期的に情報発信はしているが、今後はメール配信システムを活用するなど積極的に情報や取り組みを発信するよう努めたい。感染症予防については、石鹸や手指消毒液の補充、マスクの提供などを今後も継続させていきたい。
	保護者 81%	↓ -4%		
	教職員 84%	↓ -3%		
㉒ PTAや同窓会活動の充実に努めている。	生徒	—	「よく出来ている」と「大体出来ている」の割合は、保護者は79%、教職員は90%になっている。PTAや同窓会活動について、行事の案内や報告を行っていることがある程度評価されている。一方で保護者の約2割が、「あまり出来ていない」「出来ていない」と評価している。一般会員にはPTA行事の案内があまり周知されていないことや、PTA行事への関心が低いことが原因ではないかと分析する。	PTA行事の参加案内や活動報告を継続していく。特にPTA総会について、各分掌と連携しながら内容の充実を図り、出席者が増加するように努める。PTA会員研修や環境整備活動についても、参加者が増加するように更に広報活動を継続していきたい。PTA活動が充実するように、一般会員の理解を得ながら取り組んでいきたい。
	保護者 79%	↓ -5%		
	教職員 90%	↓ -3%		

実現度調査の分析と改善策【1年次】

実現度調査 質問項目	良好ととらえている割合 「よく出来ている」+「大体出来ている」	前年度比	分析	改善策
① 体験学習（オープンキャンパス参加）をとおして、学問研究の場に直接触れることにより、大学で学ぶ意義について学習し、進路に対する視野を広げる指導が行われている。	生徒 82%	↓ -4%	生徒、保護者の8割ができていると回答しており、行事の意義は理解されていると思われる。	生徒の実態に合った大学見学であればおおよそ生徒の進路意識が向上すると思われる。
	保護者 81%	↓ -2%		
② 継続的に週末課題と家庭学習時間調査を実施することにより、家庭学習の習慣化が図られている。	生徒 76%	↓ -6%	生徒の8割弱ができていると回答しており、家庭学習の時間は身につくつとあると感じられる。	実態としては、週末課題の提出状況が著しく悪い生徒も見られ、また2回目のスタディサポートの結果では全体の家庭学習時間は平日30分にも満たない。休日も1時間20分程度なのでなお一層確保させるよう促したい。
	保護者 68%	↓ -1%		

実現度調査の分析と改善策【2年次】

実現度調査 質問項目	良好ととらえている割合 「よく出来ている」+「大体出来ている」	前年度比	分析	改善策
① 一日総合大学をとおして、実際の大学等の講義を体験し、進路選択についての意識を高める指導が行われている。	生徒 86%	↓ -2%	生徒の86%が肯定的な意見であった。「進路選択の参考になった」と感じている生徒が多く、有意義な行事の1つとなっている。保護者は80%が肯定的意見と生徒と比べれば、若干少なくなっているが、これは生徒対象の行事であり、その効果を直接感じることができなかったためだと思う。	例年、肯定的意見の割合が多い質問項目であり、2年次の進路行事として軌道に乗っており、大きな変更は必要ないと感じている。生徒が興味・関心をもつ分野・内容の講義をより多く設定することができれば、より教育効果は高まるものと思われる。
	保護者 80%	↓ -7%		
② 自学自習の習慣を定着させるため、週末課題と家庭学習時間調査の実施が継続的に行われている。	生徒 84%	↓ -2%	生徒の84%、保護者の78%が肯定的意見である。昨年度の1年次の②は生徒の82%、保護者の69%が肯定的意見であり、保護者の肯定的意見の増加が目立つ。週末課題に取り組むことが習慣化し、家庭で学習する生徒が増加したためだと考える。	週末課題を家庭で行う習慣は身に付いてきたようだが、まだ「やらされている」学習であり、自主的な学習ではないとの意見が年次内にある。進路指導と絡めながら、学習意欲を喚起し、自学自習の習慣を定着させていきたい。
	保護者 78%	↓ -4%		

実現度調査の分析と改善策【3年次】

実現度調査 質問項目	良好ととらえている割合 「よく出来ている」+「大体出来ている」	前年度比	分析	改善策
① 放課後や夏季休業中の課外講習を計画的に実施することにより、恒常的な学習習慣を確立させる。	生徒 76%	↓ -12%	肯定的意見が生徒75.8%、保護者で79.7%であり、いずれも80%に近い数値となっているが、前年度と比べて生徒は12.2%、保護者は11%下がっている。今年度はセンター受験者に焦点を絞って課題講習を募集・実施したため、統計内に項目対象生徒が少なかったことも数値が下がった要因だと考える。	対象生徒の絞り込みによって実施に関する数値は変動するので、数値が低下したからといって悪くなったとは一概にはいえない。改善出来る点としては、課外講習にあてる時間をしっかりと確保することに尽きるが、部活動との兼ね合いもあるので、現状の実施で良いと思われる。
	保護者 80%	↓ -11%		
② 希望する進路に応じたガイダンスや学習会を実施し、より明確な目標と学習計画が立てられるような指導が行われている。	生徒 73%	↓ -15%	肯定的意見が生徒で73.1%、保護者で79.0%であり、いずれも前年と比較して数値を下げている。今年度は総合的な学習の時間に「進路研究」として進路別・個別対応可能な時間を設定して指導を行っており、前期までは成果を上げていた。後期に入って進路決定者が増えてきたため、個別に対応していることと判断する生徒が減少したため、このような数値になったものと思われる。	「ガイダンス」等の全体指導が多ければ多いほど、指導の印象は強くなる。今年度は、初めから「希望進路別」の指導が出来るように、「進路研究」の時間を多く取って指導した。その結果、指導されている場面と自分で進めなければならぬ場面が生じることとなり、進路意識が低く、自ら考えて進めない生徒は満足度の低い結果になったと考えられる。よって、改善すべきはシステムではなく、意識の部分ではないかと考える。
	保護者 79%	→ 5%		